



円筒物ではφ50～200mm、板研磨では30～150mm幅×1.5mの研磨物のテストが可能な大型研磨機を完備

「世界にひとつ」をスローガンに 唯一無二の研磨布ホイールを開発

株式会社スリーエフ技研

大阪
21

ISO 9001

<http://www.tfg.co.jp/>



研磨材のラインナップ。その多くが独自のアイデアを加えた開発品だ

Company Profile

株式会社スリーエフ技研

住所 / 〒571-0002
門真市岸和田3-9-24
創業 / 昭和46年5月
設立 / 昭和53年11月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 14名
TEL / 072-881-8400
FAX / 072-881-8590

■主な事業内容

研磨材料の製造販売、研磨材料の総合技術支援、研磨機の設備一式の請負

■主な取引先

研磨機メーカー、鉄鋼メーカー、鉄道車両メーカー、自動車部品メーカー、建機部品メーカー、家電メーカー



当社のセールスポイント

非効率であっても、お客様にベストの品物を作る事が当社の使命だと考えています。



代表取締役社長
札谷 全啓さん

「世界にひとつを届けたい」が当社のスローガン。お客様の製造現場に最適化した、「たったひとつ」の研磨材を開発することで、要求される仕上がりの実現だけでなく、工程の効率化やコスト削減にも貢献します。また近年はRoHS規格対応品や再生紙を一部に使った研磨材など、環境対応品にも力を注いでいます。

柔らかさと硬さを両立させた 画期的な研磨材「SFホイール」

研磨材料メーカーのスリーエフ技研が手掛けるのは「産業用研磨布ホイール」と呼ばれる研磨材だ。短冊状の研磨布をホイールの外周に取り付けたもので、ホイールを回転させ、研磨布の端で素材をはたきように磨く。同社はこの研磨布ホイールに独自のアイデアを加え、オンリーワンの製品を多数開発している。

同社は昭和46年、メッキの下処理に使う研磨材の販売からスタートした。当時メッキの前工程では、下地が傷付かないよう柔らかい研磨布を使用するのが一般的。しかし柔らかい故に研磨力は弱く、満足の行く結果が得られないという矛盾も抱えていた。そこに着目したのが先代社長の札谷餘光氏。「柔らかい研磨布を、砥石のように強く当てることはできないか…。」苦心の末に開発したのが同社オリジナル第一号の「SFホイール」だ。「研磨布を筒状に丸めてホイールに取り付ける」という大胆な発想で、布に強

固な「腰」を持たせた。これなら対象物を強く加圧でき、しかも素材を研磨する先端部の柔らかさは損なわれない。このSFホイールは大手家電メーカー製品の研磨に採用され、従来の研磨布ホイールでは不可能だった研磨力を発揮。生産工程の効率化に貢献したとして、メーカーから表彰を受ける好評価を獲得した。



SFホイール

「社一様」が ものづくりの基本姿勢

以後、同社は研磨布ホイールの活用分野を油井管、熱交換パイプ、鉄道車両、建設機械部品、自動車部品等へと拡大。その過程で、世界に一つしかない製品も次々に生まれていった。

「最近ではロッド材の研磨用にφ510mmのホイールを開発しました。研磨布ホイールでは一般にφ400mmが限界といわれており、日本初だと自負しています」（札谷社長）

なぜ開発品にこだわるのか。それは徹底した顧客志向の結果だと札谷社長は続ける。「当社では加工物の材質、形状、加工時間、仕上げ荒さといった要求仕様を細かくお聞きし、お客様に本当に最適な研磨材を作ります。だから必然的に、そのお客様に特化した開発品が多くなるのです」。

同社の「社一様」の姿勢と開発力を見込んで取引を申し出る大手企業は少なくない。「具体的な社名や用途はあまりオープンにできません。当社の研磨材を使っている」ということ自体が、その企業のノウハウの一部になっているためです」。

今後は海外にも積極的に打って出たい、と札谷社長。タイ、シンガポール、中国、韓国、そしてアメリカ。来るべきその日に備え、同社は持ち前の開発力に、さらに磨きをかける。